

**ヤリチンで
モテモテプレイボーイの
巨根大学生カストが送った
セックス尽くしの一日
射精回数全26回！！
第1話**

現在大学2回生のカズトは、日々セックスに明け暮れる究極のヤリチンである。

意外にも大学に入る前はまだ童貞だったカズトは、大学に入ってから遊びまくるようになり、以降セックスをしない日など数えるほどだ。

そんなセックス三昧の学生生活を送るカズトのある日を、切り取るように紹介しよう・・・。

「うあうああああ・・・」

カーテンの隙間から透き通った光がこぼれている。

外は鳥の鳴き声。

カズトは目覚めた。ここ最近はお機嫌な天気が続いている。カズトの体の健康も良好だ。

「うほおっ！！」

カズトは小さく叫んだ。

股間丸出しで寝ていたことに気付く。

ペニスがビンビンの状態でお腹に張り付いているのだ。寝ている間にブカブカのトランクス無意識にをずり下ろしていたようで、ベッドの下に落ちている。

言わずもがな、男子の健康の象徴“朝立ち”だ。

カズトは最近自分でも驚いている。

それは、腹部に張り付くほど反り返りビンビンになったペニスがオヘソの位置をはるかに通り越し、胸部にも到達せんばかりの長さに成長しているからだ。

膨れ上がりすぎて、股間に血液が充満し朝はいつも貧血気味。脳に行くはずの血液が股間に持っていかれ足りないのだ。

とにかくその巨根ぶりには自分でもあきれくらいで、パンパンになりすぎて最近痛みで目が覚めることもあるほどだ。

朝立ちはすぐに収まるものではない。

カズトは立ち上がり、陰部をそのままにした状態で洗面所に向かう。

歯磨きをして顔を洗って・・・と一連の朝の作業をこなしていく。
すると玄関のチャイムが鳴った。

“ピーーーンポーーーーンッ！！”

カズトは特段驚くこともなく、淡々と玄関に向かいドアを開けた。

ドアの前には、40前半くらいの“見た目”の女性が立っている。

「暑いっすね朝からあ！サユリさん」

「ほんとよおっ、もうあたし火照っちゃって！！」

朝から短いスカートを穿いたその女性はそう言うと、カズトの承諾も得ぬまま靴を脱いでカズトの下宿先へと上がった。

彼女の名前はサユリ。

このマンションを含め大学周辺の学生マンションを取り仕切る大金持ちの大家さんの妻だ。

年齢は若々しい見た目より少しいっていて、現在43歳になる。

カズトはこのマンションの一階に管理事務所を構える大家さんによくしてもらっており、地域のお祭りの際に知り合った彼の奥さんともそれ以降親しくなった。

ただし、奥さんと親しくなったのは“心の面”だけではない・・・。

「カズト君ってほんと朝から元気よねえ！ビンビンじゃない！あたしたまんないわ。もしかしてまた大きくなってない??」

下着すら穿かないまま顔を洗って歯磨きして・・・という朝の一連の作業を何食わぬ顔でしていたカズトは、言われて初めて自分の股間の方

を向く。

「ああ、これっすね！なんだか最近また急成長中なんですよ」

「まあね。ずっとずっと使ってるんだもの、そりゃ逞しさが増していくはずよね。カズトくんモテモテなんだって？夫に聞いたわよ」

「ははっ・・・まあそう言われればそうかなあ」

照れ笑いを浮かべながら、カズトはサユリさんに向けてその巨根を差し出した。

「じゃっ・・・今朝もお願いします！！」

「んっ・・・今日もエッチ・・・カズト君のおちんちん・・・あはあ
ん・・・ジュブブブブブッ、ズルジュブブジュルルッ」

カズトにとって股間についての“肉のホース”はもう自分の分身のようなもの。

セックス三昧の大学生活において必要不可欠なものであり、そして快楽を得るための何よりの道具でもあるのだ。

体験版はここまでです
もし気に入っていただけましたら、
続きを製品版で楽しんでいただければ幸いです